

まもる一む福岡の「交流・活動の支援」をお伝えする

環境活動 NEWS 8号

まもる一む福岡は、NPOや市民団体の環境活動を応援するため、交流やネットワークの場づくり、情報発信などを行っています。

環境活動 NEWS 8号では、2022年度の後半に実施したイベント等の様子をお届けします。

生きもの
私たちのくらし
トーク・カフェ

第2回「アリ語って知ってる？」

ふくおか
環境連絡
交流会

「WWF ジャパンの身近な水辺保全」

アドバイザ
コラム

『まもる一む福岡』に期待すること」

生きもの
私たちのくらし
トーク・カフェ

第3回「MARKET でつながる森と私たち」

生きものと私たちのくらしトーク・カフェ第2回

2022年12月10日(土)

「アリ語って知ってる？」

講師：村上 貴弘さん (九州大学准教授)



身近なテーマから生物多様性について考える「生きものと私たちのくらしトークカフェ」。今回、話題提供いただいたのは九州大学でアリを研究する村上貴弘先生。ご著書に『アリ語で寝言を言いました』（扶桑社新書）などがあります。

音でコミュニケーションするハキリアリ

アリに関わるテレビ番組にも多数ご出演されている村上先生。数日前にパナマの調査から帰ってきたばかりのお忙しい時間をぬってお越しくございました！

前半は、村上先生が取り組まれているハキリアリの発する「声」に関するご研究の概要や「アリリングルを作りたい」という夢についてお話しくございました。

フェロモンを使ったコミュニケーションを行うことで知られるアリたちですが、実はとてもおしゃべりなようで、実際にその声を聴かせていただきました。「クルルルルルル〜」（やわらかいはっぱをきってる時）、「ピテュピテュピテュ…」（かたいはっぱをきってる時）など、状況に応じて「声」を使い分けています。村上先生は、研究のためにうっかり寝言に出ちゃうほど膨大なアリの声を聞いているそうです！

アリから社会を考える

会場参加、オンライン参加のみなさんからはたくさ

んの質問をいただきました。「アリはどうやってエサを見つけるんですか？匂いですか？」とのお尋ねには「ランダムに歩くヤツが見つけます」との回答。働き者ばかりで無駄がなさそうな印象のアリ社会ですが、ブラブラ自由にしているアリがいるそうです。「人間社会も規律でしぼりすぎると新たな発見がなくなってしまう」と村上先生。自然と私たちの社会の“アリ方”を考えさせられますね！



当日の様子

「WWF 日本の身近な水辺保全」

講師：久保 優さん (WWFジャパン)

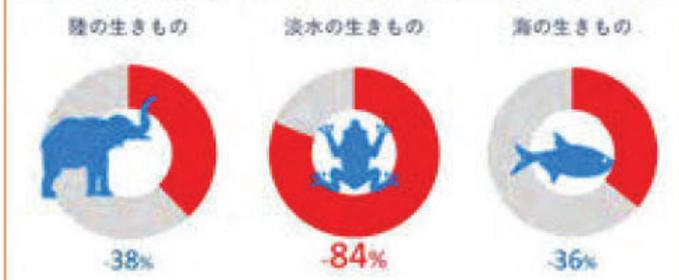


環境活動に取り組む人たちが一緒に学び、交流する「ふくおか環境連絡交流会」。今回のゲストは WWF ジャパンの久保優さん。世界的な野生生物の保護活動のイメージがある WWF ですが、九州で身近な水辺保全にも取り組んでいます。

特に減っている「淡水の生きもの」

前半は、WWF ジャパンの久保さんのお話です。WWF では「2100 年までに世界の生物多様性を 2010 年の水準まで回復させること」を目標としていること。そして 1970 年と 2016 年を比べて、陸の生きものが 38%、海の生きものが 36%、淡水の生きものが 84% も減っていること。そのため、水辺保全に取り組む必要があること、などのお話がありました。

世界では、どんな生きものが減っている？



農業と生物多様性の両立のために

日本でも汽水・淡水の生きものやカエル類など水辺を必要とする生きものが減っており、特に水田や水路を利用する種が大きく減少しているそうです。原因としては田畑や水路、里山などの二次的な自然の改修・改変があります。「効率的で収益性の高い農業へのニーズ」や「激甚化する災害への備え」などが背景にあると考えられます。

素掘りの水路は豊かな生物多様性を育みますが、農業生産では非効率。一方、コンクリートで固めた三面張りの水路では農業は効率化されますが、生きものたちが姿を消してしまう。

農業と生物多様性の両立のためには、生物多様性配慮型の水路の改修や、草刈り・しゅんせつの実施が必要で、そのためには生産者・

自治体・調達企業・有識者による連携が有効とのこと。その具体例として有明海沿岸での取り組みがはじまったそうです。

水田・水路の生きものを保全するノウハウ

その中で生まれた成果の一つが「水田・水路でつなぐ生物多様性ポイントブック」です。研究者との共同研究や行政・実務者へのヒアリングを踏まえ、水路の改修や維持管理の方法、地域との活動などがまとめられています（右ページの QR コードから PDF のダウンロードを申し込むことができます）。

また、行政や地域、JA 等と連携して取り組んでいる、生きものに配慮された水田で生産されたお米を販売する「シギの恩返し米」プロジェクトなどについてもご紹介をいただきました。

「対話に次ぐ対話が大切」

後半、会場では円形のダンボール「えんたくん」を囲んで小グループで感想や質問などを出し合い、交流を深めました。オンライン参加者には進行役から感想や質問を尋ね、ホワイトボードに書き出します。

「シギの恩返し米のような付加価値のあるお米はどんな人が買ってくれるのか?」「取り組みに参加してくれる農家さんはどんな人?」「生物多様性の重要性



「えんたくん」を囲んでの交流



当日の交流の様子



水田・水路における「生物多様性と農業の共生プロジェクト」のイメージ

をどう伝えていくの？」などの質問や意見が挙がりました。久保さんからは「消費者にとっていちばん大事なことはおいしいこと」「販売が環境配慮型の農業を続けるモチベーションになっている」「対話に次ぐ対話が大切」といったお答えをいただきました。

福岡でのこれからの環境活動にも活かせる話題やポイントをたくさんいただいた半日となりました。

「水田・水路でつなぐ
生物多様性ポイントブック」
申込みページ

[https://www.wwf.or.jp/
activities/lib/4285.html](https://www.wwf.or.jp/activities/lib/4285.html)



まもる一む福岡アドバイザーコラム第4回

高田浩二・大神弘太郎・志賀壮史

「『まもる一む福岡』に期待すること」

このコラムを担当する3人のアドバイザーに、まもる一む福岡への期待を尋ねてみました。

大神：普段、博多湾に潜って水中世界の撮影をしています。まもる一む福岡は地行浜のすぐ近く。海の世界の美しさや環境教育の大切さを伝える情報発信の場になってほしいですね！

高田：ここではカブトガニの飼育展示が見られますし（夏期のみ）、私もカブトガニ教室の講師を行います。希少種や生きものの不思議などに触れ、考える場にしていければと思います。

志賀：自分はNPOやボランティアの交流・連携に関わることが多いです。いろんなまもる一むでのイベントを通じて「あそこの人に会ったなあ」「面白い話を聞いたなあ」みたいなことを増やしていけたらいいですね。一方、意外とまだこの施設の存在を知らない方もいます。



2021年7月のアドバイザー就任式にて（左から高田・志賀・大神）

大神：ドームのそばにこんなところがあったとは！と驚かれることもありますね（笑）。

高田：広報やPRは必要ですが、魅力的な展示やイベントを積み重ねることが大切です。

大神：継続が力になりますね。

一同：引き続きよろしくお願ひします。

「MARKETでつながる森と私たち」

講師：林 博之さん (THINNING主催)

アーティストさんに描いてもらったキービジュアル↓



トークカフェ第3回は「場づくり」が切り口。多様な人たちが出店し、訪れ、楽しむ「マーケット」を通じて、森や環境のことを発信している林博之さんにお話をうかがいました。

る海の問題、海洋プラスチックに注目した取り組みも。海洋プラスチックを原料とした小皿やキーホルダーなどの製品が話題になりました(下の写真)。

活動を続けていくことが大切

後半はゲスト・参加者、会場・オンラインを交えた交流と意見交換。「環境活動はハードルが高いが、THINNINGなら誘いやすい」との感想もありました。

最後に林さんから「自分たちの世代では良い山を見られないかもしれないが、それでも可能な範囲で活動を続けることが大切」とお話がありました。



THINNING
ウェブサイト
<https://thinning.jp>



←海洋プラスチックを原料としてつくられた皿やキーホルダー

森と林業のことを「普通の人」に知ってもらおう

林さんたちが主催している「THINNING(“間伐”の意味)」は、木工作家や洋服など物販のお店、アウトドアメーカー、飲食店などが出店するマーケットのような催しです。お祭りみたいでとっても楽しそう!

その目的は、日本各地の荒廃林の問題など、森や林業について知ってもらうこと。「普通の人」でも楽しみながら、森にふれ、自分ごとに感じてもらえるような場になっています。

魅力的な作家さんやお店に出店していただくことやアーティストさん協力によるキービジュアル(上の写真)など、まずは来て、楽しんでもらうための場づくりのポイントをお聞きしました。最近では、山からつなが

福岡市保健環境学習室「まもる一む福岡」では、NPOや市民団体などによる環境活動を応援するための交流やネットワークの場づくり、情報発信などの取り組みを行なっています。環境活動に関心のある皆さん、活動に取り組むNPO等の皆さん、ぜひお気軽にご相談・ご参加ください。



環境活動交流支援の取り組み

ふくおか環境連絡交流会
ふくおか環境活動発表会

特別講座
生きものと私たちのくらしトーク・カフェ

情報の収集・発信

福岡市保健環境学習室

まもる一む福岡
MAMOROOM FUKUOKA

住所 〒810-0065 福岡市中央区地行浜2丁目1-34
電話 092-831-0669
開館時間 10:00 ~ 17:00
休館日 月曜・火曜(休日の場合はその直後の平日)
年末年始(12/28~1/4)